

．これからの4つの事業方向性

この章では「従来路線の延長線上にある、3年間でできそうなこと」に加え、現時点で出ている、協議会や事務局を含めた関係者のさらなる努力により実現可能性があるアイデア、また長期的な取り組みの第一歩を記していかなければならないことなどについて記述する。

まず、第四期までにおいて実施してきた事業内容と進捗度合、第五期における継続重要度を取りまとめたのが以下の表である。

- 実施状況 A：おおむね第四期計画通りに推進できた事業
 B：継続のみの事業、着手はしたが本格化には至っていない事業
 C：実施しなかった事業

- 事業特性や周辺環境に鑑みた進捗度合い
 ：ほぼ軌道に乗っていると思われる事業
 ：改善の余地・必要性があると思われる事業
 了：予定終了と思われる事業

- 第五期における継続重要度
 ：重点的に充実を図るべき事業
 ：充実を図るべき事業
 ：継続する事業
 ：財政状況等により休止の可能性がある事業
 ×：実施しない事業

	実施状況	進捗度合	継続重要度
歴史街道モデル事業			
新規計画の策定	A	了	×
フォローアップ事業	A		
「点」から「線」への整備拡大を目指した要望活動	B		
市民参加の促進			
地域ワークショップ	B	了	×
旅モニター事業	A		
地域づくりリーダーのネットワーク	B		
歴史街道倶楽部	B		
地域資源のネットワーク事業			
スタンプラリー	A		
市町村マークの活用	B		
観光案内所等のネットーク	B		
ボランティアガイドのネットワーク	A		
「町家店舗」のネットワーク	B		
美術館博物館のネットワーク	A		
宿泊施設のネットワーク	C		
「テーマルート」の再編成			
紀伊半島ネットワーク	A		
古代史のネットワーク	B		
戦国～江戸時代ネットワーク	B		

	実施状況	進捗度合	継続重要度
テストツアーの実施	B		
関西圏内における広報			
「歴史街道～ロマンへの扉～」への放映協力	A		
同、映像の再活用促進	A		
鉄道会社等との連携による広報	A		
展示活動	A	了	
現地における露出度向上	B		
物販	B		
計画理解の促進	B		
関西圏外における広報			
展示活動	A		
シンポジウム	B		
新聞社との事業	B		
出版社との事業	A		
歴史街道物産倶楽部			
	B		
海外広報			
欧米関係			
海外フォーラム等	B		
同、参加社へのフォローアップ	B		
エージェント、メディア対策	B		
アジア関係			
海外フォーラム等	A		
同、参加者へのフォローアップ	A		
エージェント、メディア対策	A		
インターネット	A		
パンフレット等	A		
国際会議関係	A		
外客サービスの推進	B		×
主要ホテルにおける多言語観光パンフレットの提供	B	了	×
博物館における四カ国語音声案内の提供	B	了	×
国際交流、技術協力	A		
韓国からの学校教員受入支援	C	了	×
留学生ツアー	C	了	×

過去に実施・計画してきた事業のうち、第五期において最重点で継続・充実を図るべき事業（ ）は、

モデル事業のフォローアップ

「点」から「線」への整備拡大を目指した要望活動

地域づくりリーダーのネットワーク

宿泊施設のネットワーク形成

古代史ネットワークにおける事業充実

戦国時代・城下町ネットワークにおける事業充実

テストツアーの改善と定着

テレビ番組放映協力

テレビ映像の再活用促進

鉄道会社等との連携による広報

関西圏外におけるシンポジウム等

の11項目である。

対して、第五期において、実施しない事業（×）は以下の7項目。

「歴史街道」モデル事業、新規計画の策定

地域ワークショップ

外客サービスの推進

主要ホテルへの多言語観光ファイルの提供

博物館における四カ国語音声案内の提供

韓国からの学校教員受け入れ支援

留学生ツアー

また、休止の可能性のある事業（ ）は以下の9項目である。

歴史街道倶楽部

関西圏内における展示活動

歴史街道物産倶楽部

海外フォーラム等（欧米）

同、参加社へのフォローアップ（欧米）

海外エージェント、メディア対策（欧米）

海外フォーラム等（アジア）

同、参加社へのフォローアップ（アジア）

海外エージェント、メディア対策（アジア）

これらに新たな事業アイデアなどを交えた、今後の事業方向性は以下の通りである。

第1に、第五期において大きく舵を切るべきは、デスティネーション(旅行目的地)としての「歴史街道」形成に向けてである。

この間、特にメインルートを中心とした各地域では、受け入れ向上に向けてのさまざまな取り組みが蓄積されて来ており、時機を逸すれば以降の発展の芽が大きく損なわれていくことにもなりかねない。

第2に、広報PR面では、新規事業の多くを全国を対象としたものに切り替えていくことが重要である。

これまでの協議会の広報の重点づけは 関西>海外>全国(首都圏)であったが、団塊世代市場の出現などを含め、大きなチャンスが訪れつつある。

第3には、第四期において着手した「3つのネットワーク」事業を着実に発展させることが不可欠である。

最後に、「歴史街道」モデル事業の成果を活かし、「点」から「線」への展開、ひいては地域やルートを核とした「美しい関西づくり」に積極的に取り組んでいく。

以上、五期からの事業方向を要約すれば、デスティネーションとしての「歴史街道」形成を進めつつ、広報PRの力点を全国を対象としたものに移し、「3つのネットワーク」における事業充実や「歴史街道」モデル事業の発展などを通して「美しい関西づくり」に取り組む、ということになる。

1. 「歴史街道」をデスティネーションに

活動開始から15年間、「歴史街道」という名前は主に「計画名」や「地域の共通記号」、また様々な事業を実施する「組織の名前」として意識されて来た。言い換えれば、残念ながらそれはまだ「デスティネーション」として、人々に強く意識されるには至っていないということになる。

一方ではこの間、特にメインルートを中心とした各地域では、受け入れ向上に向けてのさまざまな取り組みが蓄積されて来ている。

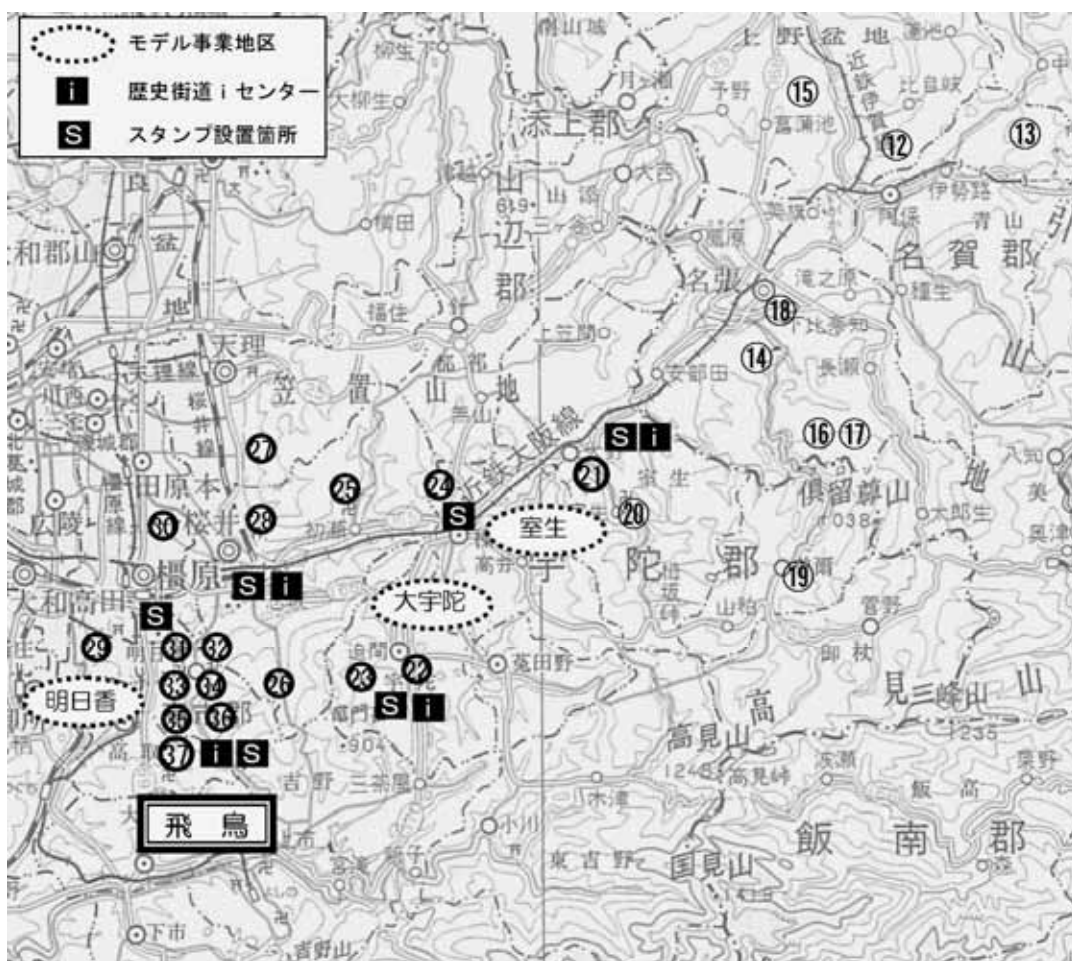
時機を逸すれば以降の発展の芽が大きく損なわれていくことにもなりかねない。五期において大きく舵をとるべきは、デスティネーションとしての「歴史街道」形成に関する諸事業に向けてである。

(1) 資源の発掘・再整理

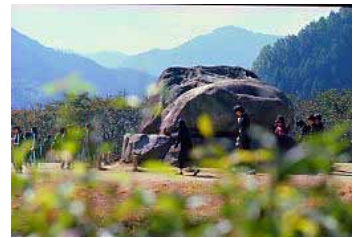
デスティネーションとしての「歴史街道」づくりの第1の課題は、現実的な1回の来訪エリアとなる単位において、自然や味覚等をふくめた地域魅力の発掘と再整理をしていくことである。

第五期においては、各種の取り組みが進んでいるメインルートを、当面、次のような4地域に分割して考えていく。

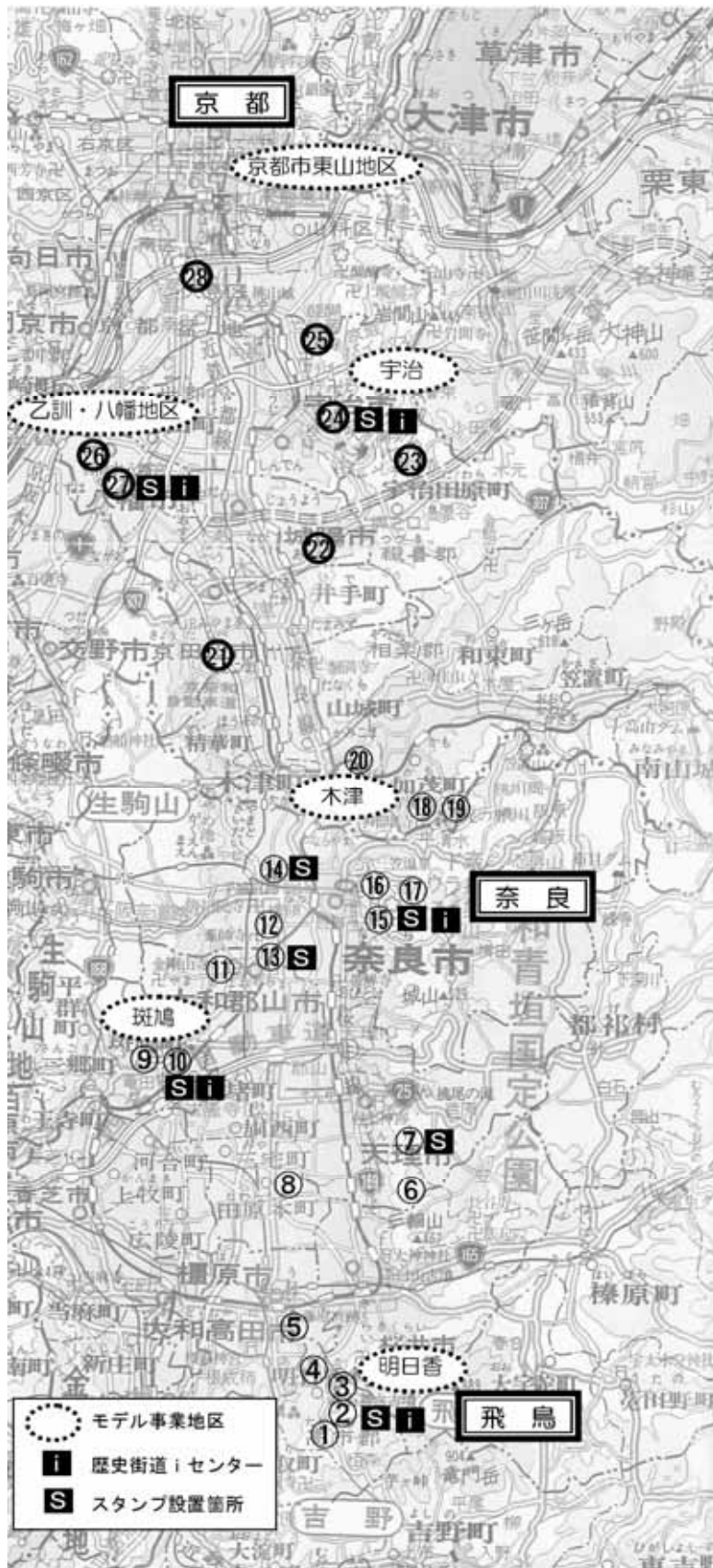
<伊勢～飛鳥：古代史ゾーン>



	資源名		資源名		資源名		資源名
1	伊勢神宮(内宮)	10	松阪牛	19	曾爾高原	28	三輪山
2	伊勢神宮(外宮)	11	榊原温泉	20	室生寺	29	柿の葉ずし
3	伊勢神宮(撰社・末社・所管社)	12	城ノ越遺跡	21	大野寺磨崖仏	30	大和三山
4	神宮徴古館	13	青山高原	22	大宇陀のまちなみ	31	石舞台古墳
5	おはらいまち・おかげ横丁	14	青蓮寺湖	23	阿紀野人麻呂公園	32	飛鳥寺
6	餅・伊勢海老・シーフード・伊勢うどん	15	伊賀牛	24	八咫鳥神社	33	甘樫丘
7	河崎のまちなみ	16	赤目四十八滝	25	長谷寺	34	板蓋宮跡
8	齋宮跡	17	赤目温泉	26	多武峰	35	謎の石造物群
9	齋宮歴史博物館	18	夏見廃寺跡	27	山の辺の道	36	万葉文化館
						37	高松塚古墳壁画館



<明日香～奈良～京都>



	資源名
1	高松塚古墳
2	石舞台古墳
3	飛鳥板蓋宮跡
4	飛鳥寺
5	藤原宮跡
6	山の辺の道
7	黒塚古墳
8	唐古・鍵遺跡
9	藤ノ木古墳
10	斑鳩宮跡
11	金魚の名産地
12	薬師寺
13	唐招提寺
14	平城宮跡
15	春日大社
16	東大寺
17	若草山
18	当尾の石仏群
19	浄瑠璃寺
20	木津川
21	一休寺
22	青梅梅林
23	禅定寺
24	平等院
25	万福寺
26	石清水八幡宮
27	松花堂庭園・美術館
28	伏見の酒蔵

< 京都～大阪：戦国～江戸時代 >

	資源名		資源名
1	嵐山	8	天王山
2	嵯峨野	9	三川合流
3	竹の径	10	石清水八幡宮
4	淀城跡	11	松花堂庭園美術館
5	長岡天満宮	12	淀川資料館
6	勝龍寺城公園	13	枚方宿
7	旧西国街道	14	高槻城跡
		15	大阪城



城跡公園（高槻）



三川合流（八幡）



竹の径（向日）



河川公園（枚方）

<大阪～神戸：近代>



	資源名		資源名
1	宝塚歌劇	13	辰馬考古資料館
2	有馬温泉	14	酒ミュージアム
3	北野異人館街	15	西宮市立郷土資料館
4	旧居留地・南京町	16	西宮市大谷記念美術館
5	池田市立歴史民俗資料館	17	芦屋市立美術博物館
6	逸翁美術館	18	虚子記念文学館
7	柿衛文庫	19	黒川古文化研究所
8	伊丹市立美術館	20	エンバ中国近代美術館
9	伊丹市立博物館	21	白鶴美術館
10	尼崎市総合文化センター	22	香雪美術館
11	鉄斎美術館	23	神戸市立小磯記念美術館
12	颯川美術館	24	兵庫県立美術館
		25	神戸市立博物館

(2) 「案内」「食と買い物」「宿泊」関係事業の集大成

以上を念頭におきながら、第2には、メインルート全体を通しての「案内」や「食と買い物」「宿泊」に関する事業をひとまず集大成していくことが必要である。

まず、第四期までに実施されている「町家店舗」や「語り部」組織の連携といった事業を4地域の付加的な魅力として強く発信していくことが必要である。

メインルート上の主な歴史的家屋



おはらいまち(伊勢)



今井町(檀原)



奈良町(奈良)



伏見(京都)



京都



鍵屋(枚方)



空堀(大阪)



北野(神戸)

歴史街道ボランティアガイド(定点案内)実施地区・協力団体

府県	実施場所	協力団体
三重	伊勢神宮外宮	お伊勢さん観光ガイドの会
三重	斎宮跡歴史ロマン広場・いつきのみや歴史博物館	斎宮(いつきのみや)ガイドボランティア
三重	北畠神社	北畠神社
三重	俳聖殿	いがうえの語り部の会
奈良	石舞台古墳・酒粕石遺跡「亀形石造物」・高松家古墳	明日香観光ボランティア
奈良	今井寺内町重要伝統的建造物保存地区	檀原市観光ボランティアガイドの会
奈良	桜原神社	桜井市観光ボランティアガイドの会
奈良	黒塚古墳・長岳寺	天理市山の辺の道ボランティアガイドの会
奈良	唐古・鍵考古学ミュージアム	唐古・鍵支援隊
奈良	法隆寺iセンター	斑鳩の里観光ボランティアガイドの会
奈良	朱雀門・東院庭園・ならまち(大乗院庭園文化館)	NPO法人なら・観光ボランティアガイドの会
京都	宇治上神社	宇治観光ボランティアガイドクラブ
京都	松花堂庭園松花堂美術館	松花堂庭園ボランティアガイドグループ「おみなえし」
京都	中山修一記念館	長岡京市ふるさとガイドの会
京都	大山崎町歴史資料館・宝積寺	大山崎ふるさとガイドの会
大阪	大阪城(大手門・桜門・青屋門)	大阪観光ボランティアガイド協会
兵庫	異人館街・旧居留地	NPO法人KOB E観光ガイドボランティア

次に考えられるのは、歴史街道物産倶楽部の「歴史街道21ブランド」などを積極的に活用していくことである。

広報PR素材としての活用はもちろん、若手リーダーのネットワークといった事業にも取り組んでいきたい。

歴史街道推奨ブランド21

福井	越前そば	越前和紙		
滋賀	近江米	信楽焼		
三重	真珠	松阪牛		
京都	宇治茶	京焼・清水焼	西陣織	京仏壇・京仏具
大阪	堺刃物	泉州タオル		
兵庫	神戸肉	丹波焼		
奈良	墨	三輪そうめん	吉野杉	
和歌山	紀州梅干	紀州漆器	紀州備長炭	
全域	和菓子			



越前和紙



信楽焼



真珠



西陣織



堺刃物



神戸牛



三輪そうめん



紀州備長炭

第四期において手つかずとなった推奨宿泊施設のネットワーク形成事業に取り組むことも重要である。

ガイドブックの作成、HPからの予約、ロビーや館内放送における歴史街道DVDの放映、ポスター・パンフレット・のぼり等の設置、外国人向け各地資料の提供、歴史街道推奨商品の販売などの事業項目が考えられる。

京阪神、奈良・伊勢志摩に加え、橿原・宇陀・長谷・摂津峡・宝塚・箕面・有馬といった温泉地との連携も強めたい。

京阪神+奈良+伊勢志摩の観光協会、ホテル協会、ジャパニーズ・イン・グループなどの連携事業としての展開も可能かも知れない。

「iセンター」については広報PRの充実と、ITを活用した事業検討。

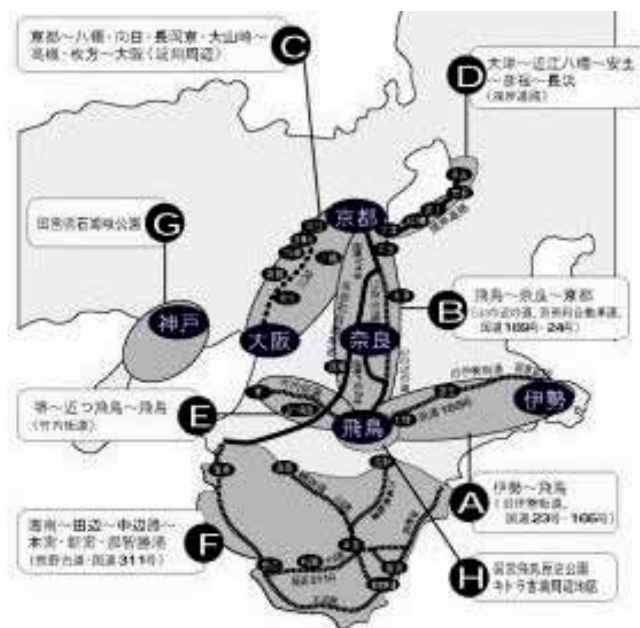
語り部組織については交流・研修会の開催、町家関係では各まちなみ保存地域との連携や信頼関係の深化、店舗ネットワークの拡大なども当面の課題となる。

(3) 「点」から「線」への展開

「歴史街道」をデスティネーションとして意識してもらうためには、第3に、「ルート」を具体的な「線」として描き出すことが有効である。

前述の「推奨道路」を段階的に「おすすめルート」として示しつつ、その美装化や、古道・街道・河川の保全・整備提案を継続していく。

「日本風景街道（シーニック・バイウェイ・ジャパン）」などの動きとも連動したい。



ルート上を走る鉄道会社ほか交通機関との連携も重要になる。

各社の連携事業としては現状のもの以外にも、車両内へのメインルート・ステッカーなどの共同掲出、歴史的名山（大和三山・三輪山・醍醐山・比叡山・松尾山・天王山等）をめぐるシリーズハイキングなど、さまざまな事業が考えられる。

JR桜井線における特別列車や近鉄・京阪特急におけるイベント列車の運行などについても提案したい。

各駅におけるさらなる事業展開についても提案したい。

QRコードを活用し、駅構内の周辺案内板などにおいて、誰もが簡単に歴史情報を得ることができるシステムを提案していくことなどが考えられる。

Welcome ボード設置駅

西日本旅客鉄道	桜井・法隆寺・大和郡山・奈良・加茂・宇治・京都・嵯峨嵐山・二条・向日町・長岡京・山崎・大阪・天王寺・宝塚・新神戸・三ノ宮・近江八幡・安土・長浜・伊賀上野・姫路・大津・篠山口・明石
近畿日本鉄道	五十鈴川・宇治山田・伊勢市・名張・美旗・赤目口・榛原・桜井・橿原神宮前・畝傍御陵前・八木・八木西口・飛鳥・筒井・近鉄下田・天理・大和郡山・奈良・新大宮・西大寺・西ノ京・大久保・京都・桃山御陵前・上本町・日本橋・難波・鶴橋・阿倍野・上野市・吉野・富田林・喜志・古市・上ノ太子
阪急電鉄	河原町・烏丸・大宮・西院・嵐山・東向日・西向日・長岡天神・大山崎・梅田・箕面・宝塚・宝塚南口・三宮
京阪電気鉄道	三条・四条・坂本・宇治・八幡市・北浜・淀屋橋
阪神電気鉄道	梅田・三宮
その他	大宇陀（バスセンター）・洲本（バスセンター）・美杉（東海旅客鉄道）

(4) テストツアーの充実

第4に、第五期の初頭にまず真剣に取り組まなければいけないのは、すでに実施された18本のテストツアーに関する、取捨選択とブラッシュアップである。

当面はメインルートにおけるテストツアーを12コース、「3つのネットワーク」では紀伊半島の4コース(吉野・天川、高野・龍神、中辺路、東紀州) 古代史ネットワークの2コース(南大阪～飛鳥、丹後・但馬) 戦国～江戸時代ネットワークの3コース(福井県、滋賀県、姫路)の、計21コースを実施する。

メインルートにおいては当面、ルート(時系列)に沿った1月の伊勢から12月の神戸まで、ルート(時系列)に沿った形での実施を考える。

例えば冬の伊勢においては、初詣や堺屋太一理事のアイデアによる「還暦伊勢参り」運動などと連携したものの。伊勢～飛鳥間であれば、いわゆる「太陽の道」(サンロード)に沿って、それを春分の日に実施して行くことなどが考えられる。

春の飛鳥においては、飛鳥キャンペーンや吉野の桜との連動。

夏にかけての奈良・京都においては発掘・仏像などをテーマにしたものに加え、主要寺社における特別講話や特別拝観・写経などとの組み合わせが考えられる。8月の同時期に開催される4つの祭事(京都五山の送り火、万燈籠<春日大社>、万燈供養<東大寺>、奈良大文字<高円山>)に、なら燈火会、ライトアップ寺社などを加えた、古都の夜の魅力を強調するようなツアーも想定できる。

秋の大阪では「大阪秋の陣」とでも銘打ち、この時期に多数開催されるイベントに各施設での「+1サービス」を加えたキャンペーンを提案。ホテルプランを充実させたい。

11月の阪神間においては、美術館博物館連絡協議会や大学、阪急・歴史街道フィールドセミナーなどとの連携。

12月の神戸についてはルミナリエや有馬温泉を題材にしたものなどが考えられる。

当然のことながら最終的には、これらを自らが年に1回だけ実施するという体制から、各旅行社やバス会社などが改良したツアーが生まれ、そのコースを参考に多くの観光客が自由に各地を訪れるようにしていくことを目指していく。

「3つのネットワーク」もあわせ、遅くとも07年度中にはラインアップを揃え、旅行会社やジパング倶楽部、クラブツーリズム等の会員組織に対し、提案できる体制を整えなければいけない。

テレビ番組や新聞社、月刊「歴史街道」等の協力を得ての広報、首都圏や阪神間での新聞折り込みといった実験的事業、割引を通しての個人会員の拡大など、様々な既存事業もできるだけこれらに集約していく。

一方、メインルート全体を通したツアーについては、欧米系外国人の団体学習ツアーなどをその突破口にしていきたい。

将来的には、各地域の超一流の宿泊施設(例:志摩観光ホテル～奈良ホテル～柊屋～リーガロイヤルホテル～有馬温泉)や寺社・地域団体等と連携し、1週間前後の高額商品を開発していくことなどが考えられる。



(5) その他の課題

有効な案内、あるいは「移動空間を楽しむ」といった観点からは、鉄道に加え、各拠点にユニークな周遊バス等が走っているのが、メインルートの特徴である。

伊勢志摩のCANバス（三重交通）、奈良の世界遺産ぐるっとバス（奈良交通）、京都のチンチンバス（京都市交通局）、トロッコ列車（JR西日本）や伏見の十石舟（伏見観光協会）、大阪の水上バス（京阪）やなにわ探検クルーズ（JR西日本）、神戸のレトロバス（神戸市交通局）などとの連携事業が考えられる。

移動空間の演出



世界遺産ぐるっとバス



十石舟



神戸シティループバス

また、それぞれのゾーン単位でも、各地域とともに取り組むべきいくつかの課題がある。

「伊勢～飛鳥間」においては、三重～奈良連携に関わる懇話会の設置や名古屋国際空港との連携。

「飛鳥～奈良～京都」間においては歴史的景観に十分配慮した、京奈和自動車の建設や景観条例等の研究。

「淀川周辺」においては、川と府境によって4つに分断されてきた歴史文化資源の再整理に加え、国の琵琶湖・淀川保全整備計画等と連動した舟運情緒の復活。

数々の美術館・博物館が宝塚歌劇、有馬温泉、神戸港、北野異人館に続く新しい目玉になる阪神間においては（文化施設の連携事業に取り組んでいる）関西経済連合会や大阪21世紀協会、関西広域連携協議会の事業との相乗効果づくり、などがあげられる。

2 . 全国への情報発信

第五期における広報PR事業で、最も力を入れて取り組まなければならないのは、全国を対象としたものである。

これまでの協議会の広報の重点づけは 関西>海外>全国(首都圏)であったが、団塊世代市場の出現など含め、大きなチャンスが訪れつつある。

現時点で考えられる事業方向は以下のようなものである。

(1) 訴求ポイントの整理

各地域ゆかりの歴史的人物の活用

「歴史街道」のほとんどの地域は、日本人なら知らない人はいない「歴史上の人物」にゆかりがあり、その関連地などを有している。

大津なら最澄、斑鳩なら聖徳太子、宇陀なら柿本人麻呂や山部赤人…。

各地や「ルート」のPRに際しては、このような「歴史上の人物」の存在を最大限に活用していくことが有効である。

連携体としての「歴史街道」の本物度も、そのことによって、これまで以上に具体的かつ親しみやすくアピールできるようになる。

「記念年」と「21ツアー」

全体の広報PRにおいて、強く打ち出していく内容としてあげられるのは「記念年」と「21のツアー」コースである。

前者に関しては、10年が「平城遷都1300年」。翌11年が「法然上人800年大遠忌法要」(知恩院：3～4月)と「親鸞上人750回大遠忌法要」(東・西本願寺：4月～12年1月)。また、13年には伊勢神宮の式年遷宮と、歴史文化にちなんだ大行事が連続することになっている。

ちなみに07年には世界陸上大阪大会、続く08年には関西サミットが開催される可能性があり、この期間、世界の耳目が関西に集まる。

以外の記念年としては、例えば「源氏物語」千年紀、「継体天皇即位1500年」などがある。

「源氏物語」にちなむ、京都、宇治、大津、武生連携、「継体天皇」にちなむ福井や大阪(枚方・高槻)、滋賀(高島)の連携等を発展させていける可能性がある。

以降にも、空海の高野山開創1200年といった行事が予定されている。

「心の時代」「和の時代」

運動としての「歴史街道」の価値は、究極のところ、日本人の「心」や伝統、あるいは「和の文化」の素晴らしさを見直そうということである。

その意味で、第五期においては宗教界や「和」に関わる諸団体との連携を深めていくことが必須である。

「日本文化の中心」としての「歴史街道」

「歴史街道」計画は関西における連携事業であるが、その趣旨は決して「関西のローカル事業」を目指すものではない。

その意味では「関西の地域エゴ」的なローカル事業という誤解を受けるような打ち出し方は、極力慎むべきである。全国での運動を盛り上げることにより、結局は自分たちに帰ってくるといった姿勢を保つことが肝要だろう。

第五期においてはまず、各都道府県を代表する歴史的地域との交流事業を開始。

関西にとどまらない、歴史文化を活かした地域づくり、ルートづくりや観光振興などに関する調査研究を進めたい。

「世界遺産」「伝統的建造物群保存地区関係」「全国小京都」「全国街道交流会議」「日本酒で乾杯運動推進会議」など、「歴史街道」関連地が主要メンバーとなっている、歴史文化系全国組織とも積極的に交流し、共同事業を検討したい。

一方では、世界各国における「歴史街道づくり」への協力についても、できる範囲で継続していきたい。

ロマンチック街道（ドイツ）、サンティアゴ・デ・コンポステーラ（スペイン）、アッピア街道（イタリア）、メイプル街道（カナダ）、王朝街道（中国）、ベトナム歴史街道、ウズベキスタン歴史街道など、各国のルート・街道とのネットワークを活かした連携事業にも取り組んでいきたい。

かつて東京において実施したことがある、世界の観光ルートとの共同シンポジウム（ロマンチック街道協会、メイプル街道協会、韓国文化体育局が参加）のようなものについても再度検討していく。

(2) 発信手法と発信先

キーマンへの情報発信

首都圏における情報発信を強めていくことは、関西の積年の課題である。

第五期においてはまず、東京でのフォーラム活動を再開させることから始めたい。

当面の第一目標は、これを手始めに、関西財界や地域、「関西元気文化圏」「関西元気発信運動」、関西空港等とも連携し、首都圏のキーマンによる「I LOVE KANSAIネットワーク」や、各地域出身の著名人による「関西ふるさと応援団」のようなものを形成していくことである。

メディア対策

「歴史街道～ロマンへの扉～」がすでに、テレビ朝日系列の10局で放送されている。

全国放送化に向け、この方向をさらに積極的に押し進めてもらうよう協力する。

また、HP・携帯電話等における同番組ソフトの再利用についても、引き続き推進していく。

「21ツアー」については旅行会社との連携と熟年知的層向けのメディアへのアピールが重要となるが、パンフレットの新聞折り込み等、個別アプローチについても実験的に実施していく。

出版・展示・JR東海との連携事業などを、工夫を加えつつ継続していくことは当然である。

各地に誕生しているフィルムコミッションとの連携も不可欠である。

以外には、詳細情報の入手源となるHPの再構築にも努める。

生き生きとした情報を伝えるには、地域担当者をはじめとする多くの方々の参加、行政主体のものに限らない地域情報の収集や再整理、各主体が整備している情報へのアクセスなどを確保していくことが必要である。

地方都市への発信

航空会社や空港と連携した、関西・伊丹・神戸路線を持つ地方都市でのPR、JR西日本と連携した中国・九州PR、近鉄との連携による名古屋PRに取り組んでいく。

新しいファン層の開拓

例えば、子どもたちが理解できる各地域のユニークな特徴を「ネットワーク」として発信するような試み。

「とんち(京田辺)」「暗記(大和郡山)」「漢字(枚方)」「かるた(大津)」「落語(池田)」など。

NPOなど市民団体による「おもしろ歴史イベント」にも、滋賀の「琵琶湖一周のろしイベント」や道頓堀川での真珠養殖など、全国にも発信できる内容のものが少なくない。

連携し互いに知恵を出していきたい。

(3) 関西圏における広報

基本的には現状の事業を継続する。

テレビ番組への協力、鉄道会社との連携によるPR、現地での露出度向上やシンポジウムといった活動である。

第五期においてはこのうち、特に各地域におけるシンポジウム活動に重点的に取り組みたい。

また以外には、次のような試みを新たにスタートさせたい。

情報発信サポート機能の充実

主たる観光ターゲットが京阪神である地域の情報発信を、積極的にサポートしていく。

各地域の魅力は歴史文化だけとは限らず、例えば農業や自然環境などと組み合わせたPRも重要になる。

前者に属する分野では、「歴史+農村体験ができる町（各府県1）のネットワーク形成」「農漁村民宿との連携」。後者に属するものでは、琵琶湖・淀川を舞台にした事業など。

QRコードのさらなる活用

現地における情報提供に関連し、第五期においては特に、QRコードを用いた事業について積極的に検討していく。

駅における周辺地案内や「街道踏破証明」の発行など。

将来的には、テレビ番組ソフトを組み合わせた案内システムが、課金制度とあわせて導入できれば理想的である。

(4) 海外広報

関西広域連携協議会、関西国際観光推進センター、ビジットジャパン等と連携した事業については今後の展開次第となるが、第五期においては(一時)休止を意識しつつの推進となる。

基本的には、財政状況を見つつ、四期の事業メニューの中からできるものを継続していく。

また、あわせて国際観光振興などに関わる新体制づくりへの提言や発信素材、ノウハウ、人脈の継承といったことにも段階的に取り組んでいく。

「歴史街道」が蓄積してきた経験・人脈や各種の情報発信素材は、今後の国際観光振興においても大いに活用が可能である。

今後、協議会としての海外への広報PRが控えめになるとしても、新体制に対しては情報発信のもととなる素材やノウハウの提供といった形で貢献したい。

例えば、十カ国語のHPといった事業は是非、新体制の下で発展させてもらいたい。

事業個々にまつわるノウハウも、最大限に活用してもらいたい。

例えば、海外イベントをレベルアップするためには、日本人アーティストの海外公演との連携事業が有効である。

05年には「中村鴈治郎ロサンゼルス公演」「コシノジュンコ北京公演」とあわせた関西プロモーションが実施され、以外にも「モーニング娘・香港公演」とのジョイントが計画された(いずれも実行委員長=日本航空、副委員長=歴史街道)が、現地の反応、メディアの露出ともにこれまでにない規模のものであった。

今後もこのような日本人アーティストの海外公演とのコラボレーションを積極的に継続してもらいたい。

「関西」の枠にとらわれない連携事業も重要である。

ワールドカップに先駆けて98年にロンドン、99年にパリで開催した日韓共同フォーラム、阪神淡路大震災の半年後、東京の外国人記者クラブで開いた「震災後の関西」フォーラム、以外には中国仏教会との仏教絵画展など、さまざまな形で連携ノウハウを継承してもらいたい。

人脈の最たるものはかつての「海外フォーラム」参加者4000名の名簿と、北京事務所での存在である。

北京事務所については業務受託や共同運営などを通して、その機能部分が関西の財産の1つとして継承されるよう努力したい。

3. 「3つのネットワーク」事業の発展

第五期における重要方向の3つ目は、第四期において着手した「3つのネットワーク」事業を発展させることである。

(1) 紀伊半島

04年の世界遺産登録に沸き、各種の準備活動、祝祭行事や記念事業などが実施され全国から注目された。第五期の3年間からは、緩やかな「追い風」を受けながら、これを引き金とした地道な地域づくりを再び重視していくべき時期といえる。

第四期において実施した広報事業などを継続する一方で、紀伊半島3県会議の方向などを確かめながら、紀伊半島交流会議において、20年30年後の各地のあり方などに関する議論を始めていくことが必要である。

メンバーへの意見聴取による、提言冊子づくりなどをその出発点としたい。

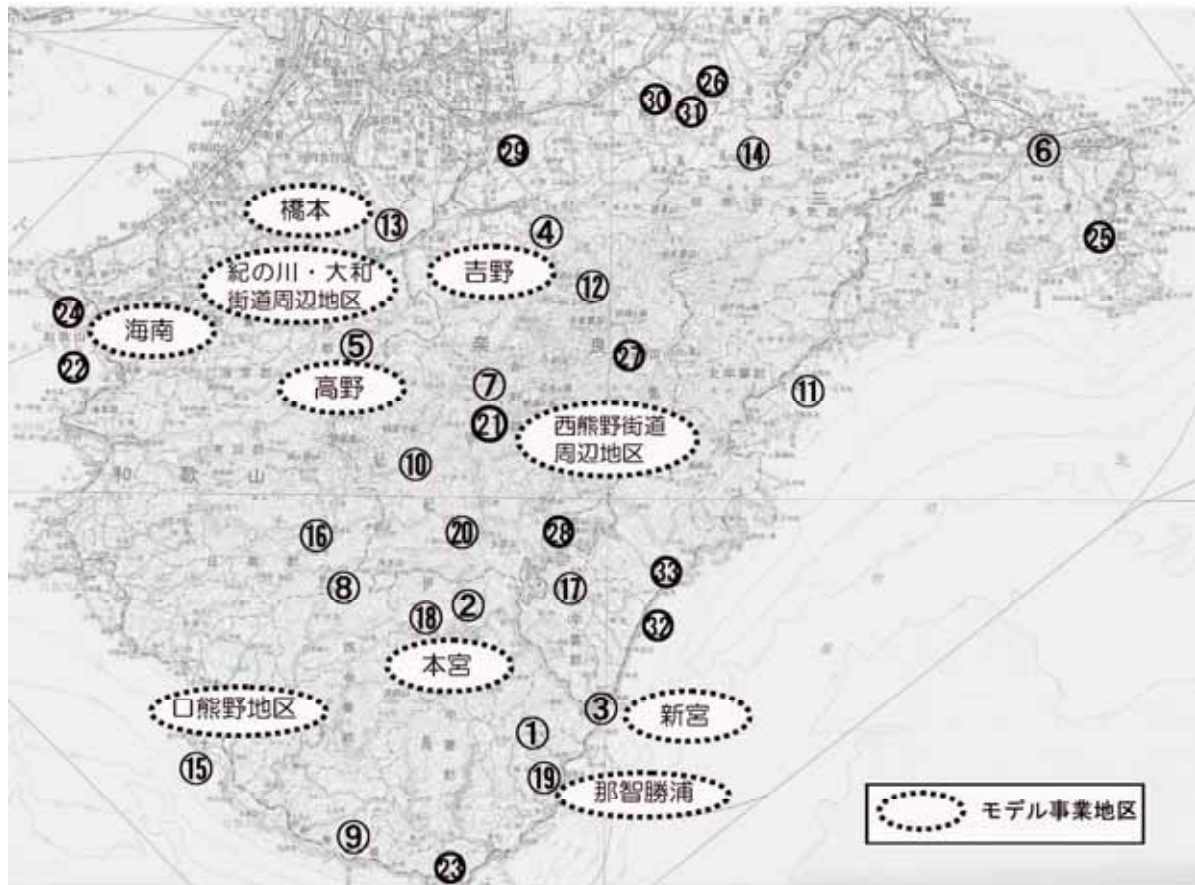
また、この地域ではすでに、三重県域を除くほぼ全ての重要地域が「歴史街道」モデル事業の実施エリアとなっている。

下記の各事業を着実に完成させていくこととあわせ、国道311号線の「日本風景街道(シーニック・ハイウェイ)」としての充実や、世界遺産に指定された巡礼道の保全整備を推進していくことが重要である。

テストツアーに関しては、当面の4コースを継続する。

歴史街道モデル事業 主な整備事業(紀伊半島のまちネットワーク)

奈良県	吉野町	桜井吉野線道路改築事業、芭蕉ロマンの道整備、万葉の道整備、吉野山町並み整備 等
	西京野街道周辺地区	大塔村郷土資料館整備事業、観音峯南朝文化ゾーン整備事業、天川村入村口整備事業 等
和歌山県	橋本市	旧大和街道(四つ辻～里松)整備、紀伊見峠整備、一里塚整備、紀の川緑地公園整備 等
	紀の川・大和街道周辺地区	道の駅「紀の川万葉の里」整備、慈尊院門前町整備、紀伊国分寺跡周辺整備、京奈和自動車道整備 等
	新宮市	駅前広場修景整備、徐福公園整備、飛鳥の渡し跡整備、水辺プラザ整備、丹鶴城公園整備 等
	田辺市(口熊野地区)	紀伊田辺駅周辺整備、コミュニティ道路整備、南方熊楠邸保存・復元整備、扇浜総合整備 等
	海南市	熊野古道舗装修景、黒江地区内舗装修景整備、旧鈴木邸修景整備、熊野街道道標説明板整備 等
	高野町	道標・誘導サインの設置、歩道の整備(石畳化)、外国語案内板の設置、電線類地中化 等
	那智勝静町	大門坂登り口町道景観整備、サイン整備、道の駅整備事業、ゆかし湯歩道設置事業 等
田辺市(旧本宮地区)	国道168号拡幅整備、熊野古道整備、案内板設置事業、街なみ形成修景事業 等	



	資源名		資源名		資源名		資源名
1	那智山	9	大辺路	17	湯ノ口	25	志摩
2	本宮	10	小辺路	18	本宮温泉郷	26	赤目四十八滝
3	新宮	11	伊勢路	19	勝浦	27	大台ヶ原
4	吉野	12	大峯奥駟道	20	十津川	28	瀨峡
5	高野	13	大和街道	21	洞川	29	飛鳥
6	伊勢	14	伊勢本街道	22	和歌浦	30	室生
7	天川	15	白浜	23	串本	31	曾爾
8	中辺路	16	龍神	24	紀の川	32	七里御浜
						33	鬼ヶ城



熊野古道



大峯奥駟



那智駅交流センター

地域別課題として特にあげられるのは、熊野古道とその出発点である京都や大阪との連携強化である。

J R西日本によるキャンペーンに加え、京都・大阪においては関西経済連合会、関西経済同友会、京阪・南海電鉄、大阪府市、京都市などが連携し、ウォークや整備事業を展開している。



大阪市内の熊野街道基点



熊野街道ウォーク



古道のウォークキッド
(J R西日本)

また、大阪・天満橋の八軒家浜には「熊野街道案内所」の設置が計画されている。
和歌山・三重・奈良の既存施設との共同事業づくりを手はじめに、紀伊半島情報の発信基地としての連携を促進していければ理想的である。

紀伊半島における案内所ネットワーク



熊野古道館 (和歌山)



紀南ツアーデザインセンター(三重)



吉野山ビジターセンター(奈良)

(2) 古代史ネットワーク

南大阪～飛鳥

南大阪～飛鳥連携には、キラ星のごとく重要な古代史関連地が集積している。

また、それらをつなぐのが、歴史文化軸としての竹内街道、自然軸としての大和川、また観光軸としての近鉄線や南阪名道路である。

古代史エリアの資源



池上曾根遺跡



仁徳陵古墳



竹内街道



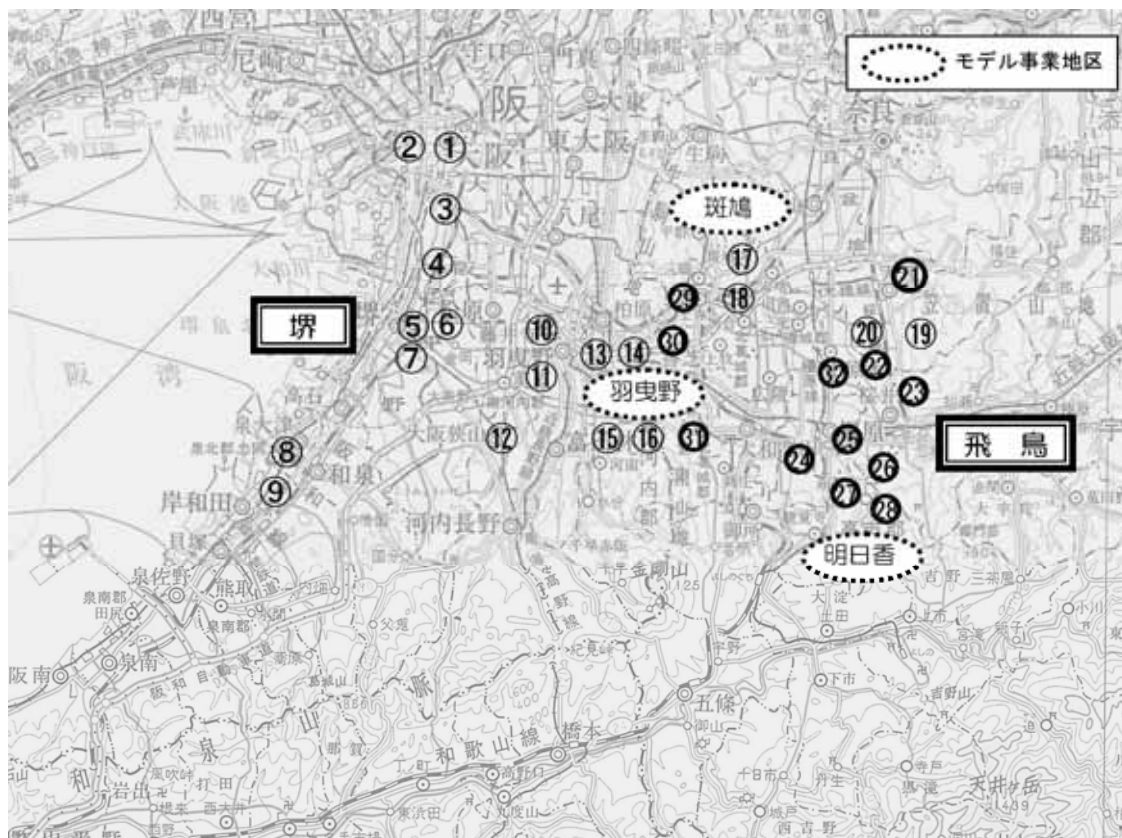
叡福寺



唐古鍵遺跡



黒塚古墳



	資源名		資源名		資源名		資源名
1	難波宮跡	9	大阪府立弥生文化博物館	17	法隆寺	25	藤原宮跡
2	大阪歴史博物館	10	古市古墳群	18	藤ノ木古墳	26	飛鳥資料館
3	四天王寺	11	誉田八幡宮、応神天皇陵	19	山の辺の道	27	飛鳥の古墳群、石造物群
4	住吉大社	12	大阪府立狭山池博物館	20	大和古墳群	28	奈良県立万葉文化館
5	百舌鳥古墳群	13	叡福寺、聖徳太子墓	21	石上神宮	29	馬見古墳群、嵯山古墳
6	仁徳陵古墳	14	太子町立竹内街道歴史資料館	22	黒塚古墳	30	香芝市二上山博物館
7	堺市博物館	15	近つ飛鳥風土記の丘	23	大神神社	31	当麻寺
8	池上首根遺跡	16	大阪府立近つ飛鳥博物館	24	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	32	唐古・鍵遺跡

同地では1年の連携委員会での議論を経て、2005年から大阪府・奈良県によるキャンペーン事業が開始された。

今後の方向性の第1は、その発展的継続である。

鍵となるのは、弥生文化博物館、堺市博物館、近つ飛鳥博物館、橿原考古学研究所附属博物館、万葉文化館といった博物館を、どう有効に活用するかということであろう。



弥生文化博物館



堺市博物館



近つ飛鳥博物館



橿原考古学研究所附属博物館



万葉文化館



飛鳥資料館

以外には、南阪名道路への愛称募集、「太陽の道」(サン・ロード)に沿った淡路島や「古代史ゾーン」との連携(神戸空港・関西国際空港・中部国際空港の連携)。

また古代史ファンに止まらず、国内の学校や韓国からの修学旅行誘致にチャレンジしていくことなどが当面の共通テーマとなる。

最後に、今後考えていかなければいけないものが世界遺産登録の推進である。

この地域では現在、四天王寺・難波宮跡、百舌鳥古墳群、飛鳥に関連した地域・団体が、それぞれに世界遺産登録を目指した動きを開始している。

それらを積極的に支援していくとともに、今後の進展を見つつ、近つ飛鳥・竹内街道・山の辺の道・藤原宮跡などを加えたエリアを一括し世界遺産登録していくための協議機関設置などについても、提案していくことが必要になる。

丹後・但馬

古代史連携が可能なもうひとつの地域、丹後・但馬地区においては、2006年に入りようやく組織づくりが始まったばかりである。

現在のところ、両地域は観光的には京阪神からの別々のデスティネーションと目されており、相互の交通事情もあまりよくない。

だが、京都府・兵庫県を含めた両者が連携して取り組むべき事業を見出すことはさほど難しくない。

例えば、両地域が別々のままでは、京阪神以外への情報発信面では大きな限界が生ずる。

市町村合併が進む中、観光や地域づくり戦略の再構築が必要な機会であるという点では、両地域に共通するニーズもある。

海の幸や温泉・リゾート環境に加え、豊かな伝承や「もう1つの古代史」がこの地域に新たな活性化をもたらすことを期待しつつ、活動を軌道に乗せたい。

当面考えられるのは紀伊半島同様、資源の絞り込みや共同広報、市民を含めた交流会議の設置などの事業であろう。

古代史ネットワークの歴史文化資源



城崎温泉



天橋立



加悦古墳公園

丹後七姫伝説

- ・ 悲運の英雄・源義経に愛された舞姫「静御前」 / ・ 文学「山椒大夫」のモデルのとなった悲話「安寿姫」 / ・ 舞降りた美しき天人「羽衣天女」 / ・ 美しすぎた情熱の歌人「小野小町」 / ・ 戦国に散った一輪の花「細川ガラシャ」 / ・ 優しき土地に名を贈る「間人皇后」 / ・ 常世の国、龍宮の姫君「乙姫」

浦島伝説

浦島太郎を筒川大明神として祭ったのがはじめとされる浦島神社は、日本最古の浦島伝説が伝わる神社といわれ、浦島伝説ゆかりの品を数多く所蔵している。

元伊勢伝説

現在の伊勢神宮のある場所に移るまで25回の移動を繰り返したと伝えられる。この地には2番目に移ってきた場所

徐福伝説

紀元前219年、秦の始皇帝の命を受け、不老不死の薬を求めて船出した徐福が伊根町新井崎に漂着したという伝説が残されている

天日槍伝説

天日槍は、但馬の開祖で、製陶や金工の技術をもたらしたといわれる新羅の皇子

整備面では、すでに丹後の2地区において広域的なモデル事業計画が策定されており、豊岡でも旧・出石町域において同様の事業が実現している。

連携会議設立をきっかけに、3地域に城崎・円山川などをあわせ、両地域を結ぶ広域計画づくりが進めば理想的である。

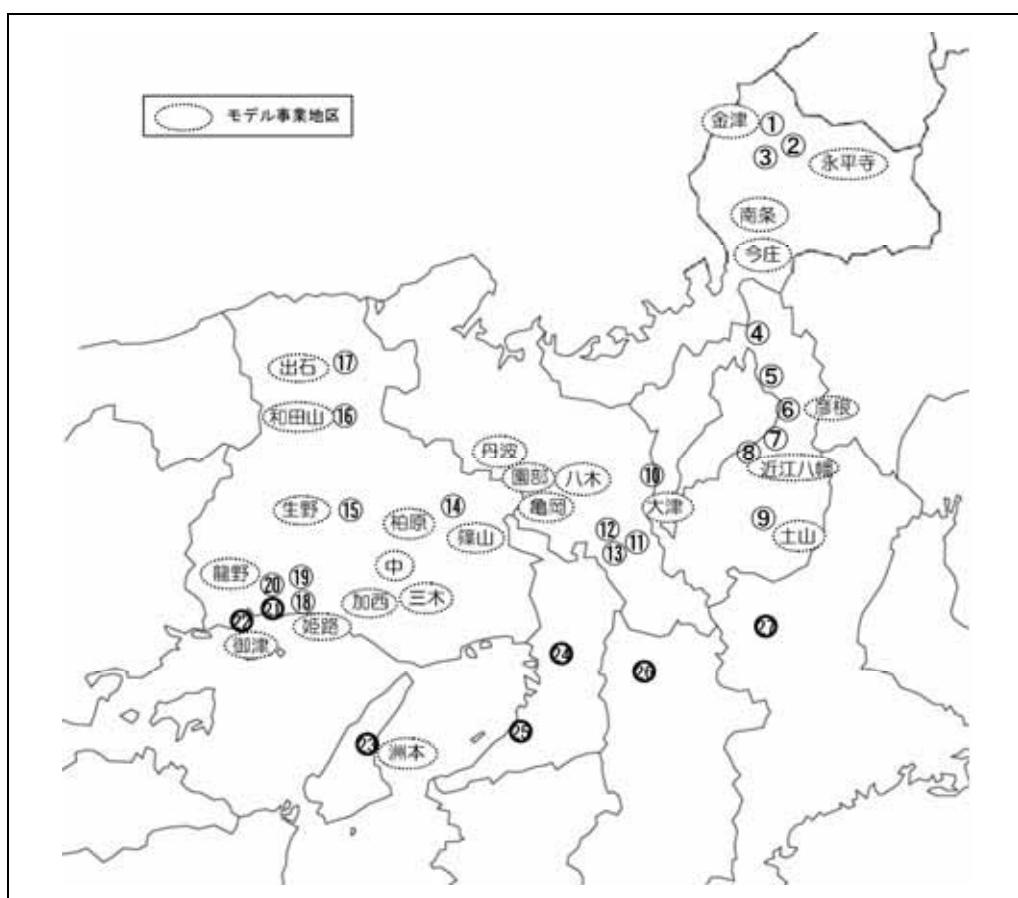
(3) 戦国～江戸時代 (SAMURAIのまち) ネットワーク

このネットワークには、各府県にまたがる多数地域が関連しており、全体として取り組むべき事業と、中小のネットワークで進めるべき事業を各種考えていく必要がある。

前者における例は「新快速に沿った連携」「祭の活用」や「旧街道を活用したシリーズ・イベント」。

後者における例は「県内におけるルート形成」や「姫路+周辺市の連携」、「人物（信長・秀吉・蓮如・細川ガラシャなど）をキーワードにした複数市町の連携」、「日本酒をテーマにした京都・兵庫（神戸・西宮・伊丹）連携」、「伊賀と甲賀の連携」といったことである。

大規模連携においては協議会には企画調整機関としての役割が、また中小規模の実施にあたってはコーディネート機関としてのそれが求められる。



	資源名		資源名		資源名
1	丸岡城	10	比叡山 延暦寺	19	書写山円教寺
2	永平寺	11	知恩院	20	龍野城跡
3	一乗谷朝倉氏遺跡	12	龍安寺	21	室津
4	賤ヶ岳	13	二条城	22	赤穂城跡
5	長浜城	14	篠山城跡	23	洲本城跡
6	彦根城	15	生野銀山	24	大坂城
7	安土城跡	16	竹田城跡	25	岸和田だんじり祭
8	近江八幡水郷	17	出石城跡	26	郡山城跡
9	甲賀忍者屋敷	18	姫路城	27	伊賀忍者屋敷・忍者博物館

各関連地域において、実施されているモデル事業概要は以下の通りである。

歴史街道モデル事業 主な整備事業（戦国～江戸時代ネットワーク）

福井県	今庄町（現南越前町）	国道365号道路整備、今庄宿景観整備、木ノ芽峠塞群周辺環境整備、湯尾峠周辺整備 等
	南条町（現南越前町）	日野川河川整備、妙泰寺周辺整備、国道365号整備、県道杣山城址線整備 等
	金津町（現あわら市）	県道トリムパークかなづ線整備、サイクリングロード整備、駅前総合案内板整備 等
	永平寺町	一般国道158号（中部縦貫自動車道）整備、道の駅整備、九頭竜川河川環境整備 等
滋賀県	彦根市	夢京橋キャスルロード整備、彦根シティゲート整備、佐和山ハイキングコース整備 等
	大津市	西大津バイパス歩道整備、湖西道路サイン整備、歴史のみちづくり整備 等
	近江八幡市	八幡堀遊歩道整備、市道白雲宮内線道路整備、街なみ整備、長命寺中小河川改修事業 等
	土山町（現甲賀市）	旧東海道街並み整備事業歴史的文化伝承整備、峠の茶屋整備事業、斎王群行道路整備 等
京都府	亀岡市	宇津根新国道線整備、国道372号道路整備、保津橋交流ふれあい橋梁整備事業 等
	園部町（現南丹市）	シンボルロード整備事業、園部公園整備事業、天神川河川防災施設事業 等
	丹波町（現京丹波町）	須知公園の整備、須知城跡整備、ポケットパーク、橋詰広場等整備、まちなみ案内板の設置 等
	八木町（現南丹市）	国道477号道路新設改良事業、農村公園（散策道）整備、木喰の里整備、遊歩道（石畳の道）整備
兵庫県	姫路市	ノコギリ横丁・歴史のみちすじ整備、船場川河川環境整備（姫路城濠浄化）、姫路公園整備（櫻門橋の木橋整備） 等
	出石町（現豊岡市）	沢庵・ひぼこ街道整備、一宮街道整備、谷山川河川環境整備、出石川桜つつみ環境整備 等
	加西市	北条地区街なみ環境整備、小谷城跡公園整備、文化公園整備、播磨中央自転車道整備 等
	龍野市（現たつの市）	童謡公園整備、揖保川水辺プラザ河川敷整備 等
	篠山市	国道372号整備、篠山西紀線整備、八上野間線（戦国歴史街道）橋梁整備、河原街なみ環境整備事業 等
	洲本市	寺町街なみ整備、旧町名標示柱整備、成ヶ島公園整備、海辺の遊歩道整備、ウォークトレイル整備 等
	柏原町（現丹波市）	JR柏原駅周辺整備、歴史遊歩道の整備、史跡（柏原藩陣屋敷跡）内及び史跡周辺の環境整備 等
	生野町（現朝来市）	総合案内所の整備、銀山まち回廊の整備、銀山参道の整備、トロッコ路の散策道整備 等
	御津町（現たつの市）	国道250号歩道整備事業、室津漁業集落環境整備事業、室山城跡の整備事業 等
	中町（現多可町）	東山古墳群整備事業、エコミュージアムビジターセンター構想、ふるさとの玄関整備事業 等
	三木市	案内板設置事業、湯の山街道景観整備、三木城址公園整備、旧玉置家住宅活用事業 等
	和田山町（現朝来市）	竹田城跡周辺整備、電線類地中化、立雲峡周辺整備、道の駅歴史街道iセンター整備 等

ＪＲ新快速との連携

兵庫・大阪・京都・滋賀・福井の５府県で是非推進したいのは、ＪＲ新快速に沿った「SAMURAIのまち」連携である。

交通手段、情報発信手段を備え、しかも京阪神という大人口圏を横断する連携となるため、観光的な勝算はきわめて高い。

ＪＲ西日本を交え、第五期における沿線会議などの設立を図る。

播州赤穂 < 17分 > 竜野（各駅停車） < 15分 > 姫路 < 24分 > 明石		
	泉岳寺（赤穂）	姫路城（姫路）
< 13分 > 神戸 < 18分 > 尼崎 < 5分 >		
	寺町（尼崎）	大阪城（大阪）
大阪 < 15分 > 高槻 < 12分 >		
	高槻城跡（高槻）	二条城（京都）
京都 < 8分 > 大津 < 22分 > 近江八幡 < 14分 >		
	石山寺（大津）	八幡堀（近江八幡）
彦根 < 15分 > 長浜		
	彦根城（彦根）	気比神宮（敦賀）

祭の活用

これに岸和田・和歌山(市)・伊賀・甲賀・大和郡山などを交えて実施したいのは、城下町をはじめとする、各地の「祭」連携である。

その多くが集中する秋などに、イベントやウォークを交えた「ウェルカムデー」を設定することなども考えられる。

既存イベントがない地域も歴史をひもとけば、例えば大山崎町における「山崎合戦の日」天王山ハイキングなど、大金をかけなくてもできるユニークなイベントが考え出せるはずである。



赤穂義士祭(赤穂)



灘けんか祭(姫路)



岸和田だんじり祭(岸和田)



伊崎の竿とび(近江八幡)



玄宮園で虫の音を聞く会(彦根)



上野天神祭(伊賀)

多くの地域の共通事業として考えられる「街道ウォーク」のシリーズ化については次項に記述する。

各県別の事業提案

「点」から「線」への整備事業に関連し、福井県に提案したいのは、既存道路を活用した、以下のような「福井歴史街道」の形成である。

福井県の弱点は「北陸他県と比べコレといった目玉がない」あるいは「何があるのかわかりにくい」といったイメージがあることだ。

芦原温泉や東尋坊といった有名観光地に加え、永平寺や越前朝倉氏遺跡、「一筆啓上賞」で一躍有名になった丸岡城などの歴史資源や、各種の伝統文化体験施設があるにもかかわらず、それらは全くバラバラの「点」としてしか認識されていないというのが現状である。

対して、同県の強みとしてあげられるものに、京阪神や名古屋と金沢の結節点にあるという「地の利」がある。

その線上に地域資源を「ルート」として連結していくことができれば、カニを始めとする海の幸や海水浴などと合わせた、福井観光の「もう1つの柱」をうち立てることができるのではないだろうか。

下記ルートはその一例だが、戦国・江戸時代に関連する場所を中心に、伝統文化体験についてもふんだんに楽しめるルートとなっている。

福井をめぐるルート

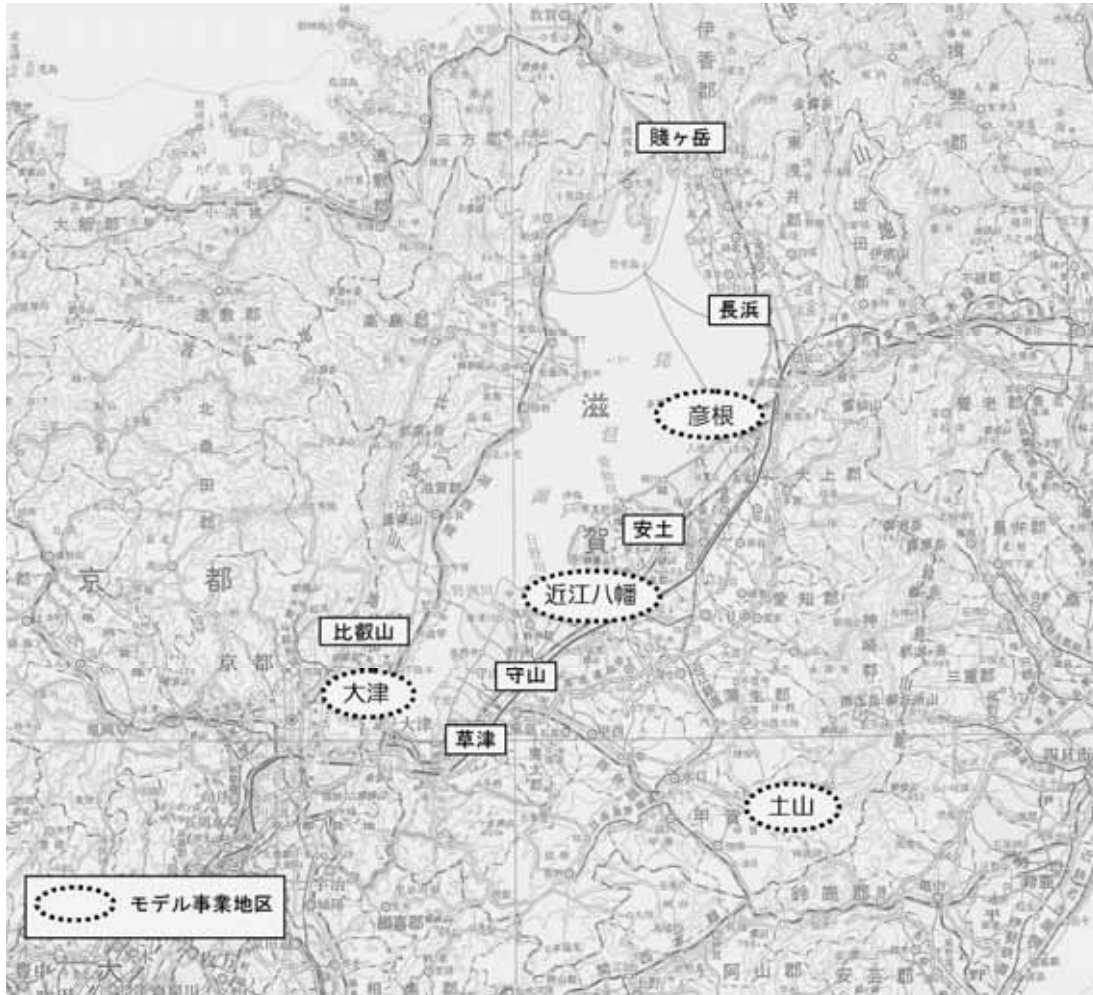


	資源名		資源名		資源名		資源名		資源名
1	吉崎御坊跡	5	越前竹人形の里	9	越前漆器	12	武生	15	木の芽峠
2	東尋坊	6	永平寺	10	佐々木小次郎生誕地	13	南条	16	敦賀
3	芦原温泉	7	一乗谷朝倉氏遺跡	11	今立・和紙の里	14	今庄・そば道場	17	小浜
4	丸岡城	8	一乗滝						

同様に滋賀県には琵琶湖東岸のさざなみ海道を中心に、各拠点を結ぶ「滋賀歴史街道」づくりを提案したい。

琵琶湖の雄大な景観と、賤ヶ岳～長浜～彦根～安土～近江八幡～草津～大津と京都を結ぶ一大戦国絵巻を体感できるコースとして発展していく可能性がある。

滋賀をめぐるルート



これらはいわゆる元来の「テーマルート」に相当する部分であるが、今後の地元の取り組みいかんによっては、日本を代表する観光ルートとなる資質を持っている。

5つの国（摂津・淡路・播磨・丹波・但馬）ごとに持ち味が違う兵庫県に関しては、この2県のようなルート設定は難しい。

むしろ5つの国ごとの売り物やターゲットをはっきりさせた戦略を練ることの方が重要だろう。

例えば、世界遺産を持つ姫路が周辺地域（赤穂・たつの・明石・一乗寺・生野など）とうまくネットワークを組んだ情報発信に取り組みれば、十分にそこに一泊する価値が創り出せる。

兵庫は一方で、数多くの顔が違った「城下町」を有するという特徴も持っている。

赤穂・姫路・明石・洲本・三木・尼崎・伊丹・篠山・柏原・出石・和田山…。

5つの国ごとの持ち味と、「城下町」という共通項をうまくブレンドできれば、観光県としての資質がもっと明確になるのではないだろうか。

テストツアーについては、福井・滋賀・姫路周辺を各1コース。以外については別途検討することとする。

4 . 美しい関西づくり

(1) 「歴史街道」モデル事業地区における重点支援

今後の「歴史街道」モデル事業の発展にあたり、最重点で考えていかなければいけないのは、当初の計画のほとんどをすでに完成させた、もしくは完成の目処が立っている地区に対するフォローアップ施策の強化である。

対象となるのは概ね、次のような各地であろう。

1 永平寺町（福井県）	2 南越前町（同）		
3 彦根市（滋賀県）	4 近江八幡市（同）	5 大津市（同）	6 旧土山町（現甲賀市：同）
7 京都市（京都府）	8 宇治市（同）	9 乙訓八幡地区（同）	
10 口丹後地区（同）	11 北丹後地区（同）		
12 明日香村（奈良県）	13 斑鳩町（同）	14 旧大宇陀町・15 室生村（現宇陀市・同）	
16 羽曳野市（大阪府）			
17 姫路市（兵庫県）	18 篠山市（同）	19 旧出石町（現豊岡市・同）	20 宝塚市（同）
21 日本宮町・22 口熊野地区（現田辺市：和歌山県）	23 那智勝浦町（同）	24 新宮市（同）	

今後は「美しい国土づくり」「景観形成モデル事業」「ビジットジャパン」等の国の施策とも軌を一にした、飛躍的な事業推進が期待される。

また、市町村合併による変化に対応するため、複数地区間や地区周辺、周辺資源との連携についても協議していく。



(2) 景観道路づくり

以上のような各地を結ぶものとして、現行の「点」としてのモデル事業をさらに「景観に恵まれた道路で、歴史・自然資源をネットワーク」していくような形に進化させていくことを検討する。

当面、候補となる道路は熊野古道・中辺路ルートに沿った「田辺～本宮間」の国道311号、滋賀県のさざなみ街道、「山の辺の道」に沿って飛鳥と奈良を結ぶ国道169号などである。

国道311号についてはすでに「シーニック・バイウェイ」紀南（和歌山の一部）としての事業が検討されているが、伊勢～飛鳥間、飛鳥～奈良～京都間および琵琶湖岸についても、同様の動きを推進したい。

各府県が、数箇所の景観道路を指定。住民参加型のシステムとあわせ、条例の見直しや国費などを投入した重点整備を進めることを目指していく。

<p>[国道311号] 三重県尾鷲市から熊野市まで海沿いを進んだ後、紀伊半島を横切って和歌山県上富田町へと続く国道。</p> <p>尾鷲から熊野市までは、海を横に眺めながらの道。 熊野から本宮、中辺路へは一部熊野古道と並行して山中をはしる。</p>	
--	---

<p>「シーニックバイウェイ」北海道</p> <p>シーニックバイウェイとは、みちをきっかけに地域住民と行政が連携し、景観をはじめとした地域資源の保全・改善の取組を進めることにより、美しい景観づくり、魅力ある観光空間づくり、活力ある地域づくりを図るもの。</p> <p>北海道では全国に先駆けて、魅力的なツーリング観光を提案するシーニックバイウェイ北海道策定に向けた活動を、03年より開始し、2年間にわたる試行期間を経て、05年から本格的にスタート。</p> <p>05年、3つのルートを指定し、道の植栽、清掃活動、コンサートやバスツアーの開催、地域の魅力やイベント情報の提供など様々な活動を展開している。</p>	<p>2005年度指定ルート</p> <p>「四季を彩る花人街道」大雪山・富良野ルート</p> <p>「美しい湖と秀峰、火山に出逢える」支笏洞爺ニセコルート</p> <p>「ロマンティックヒーリング・風を感じて走る道」東オホーツクシーニックバイウェイ</p>
---	---

(3) 古道・街道の顕彰と活用

これらに是非加えていきたいのは、古道や旧街道の保全・活用に関する視点である。

「歴史街道」の各地を結ぶ古道・街道の存在が昨今、急激に見直されるようになってきている。

伊勢街道、山の辺の道、山背古道、京街道、東高野街道、西国街道、熊野古道、竹内街道、東海道、中山道、北国街道などの保全整備や、これらを活用したウォークイベントが各地で実施されるようになってきた。

中でもユニークなのは、04年から大阪府域で始められた、「熊野街道」表示を民間の寄付で設置するという試みである。

当事例で設置された表示板のコストは、府の森林組合との連携もあり一基数万円。

設置箇所を当面、旧街道と府道の交点にある府の敷地内とし、イベント開催時にあわせて一気に十数基が設置された。

奈良県から三重県にかけての「伊勢本街道」でも、紀伊半島ネットワーク会議に属する地元のNPO主導で同種の事業が実施されている。



熊野街道表示（堺市内）



軒先表示（伊勢本街道）

このような手法を用い、沿道の自治会や社会貢献団体の協力が得られれば、大きな予算を投じなくとも、関西における旧街道の顕彰は画期的に進むことになる。

また、この方向をうまく盛り上げていくことができれば、関西から全国に広がる、「国の姿を変える」画期的な事業に発展するかもしれない。

第五期においては、05年に設置された「近畿街道・拠点ネットワーク推進協議会」等と連携し、以上のような「大阪方式」の各地への普及を目指すとともに、各街道のハイライトコースを歩く「古道・街道ウォーク」の定例化を目指していきたい。

後者については、現在バラバラに実施されているウォーク事業の日程をできるだけ調整し、場合により新設（例：東海道の土山～関間）、「ウォークフェスティバル」実行委員会（地元・運輸機関・国などが参加）のようなものを立ち上げ、一括広報する形で、オール関西としての恒例行事化ができれば理想的である。

各街道のウォークイベント

山の辺の道	桜井市ウォーキングフェスティバル	毎年11月初旬
	てくてく天理ウォーキングフェスタ	毎年11月中旬
山背古道	山背古道とことんウォーキング	毎年11月下旬
西国街道	乙訓・八幡ウォーク	毎年3月中旬
熊野古道	熊野古道大遠足(バス&ウォーク)	

東海道(土山~関)



東海道伝馬館



田村川



関宿

さらに、日本ウォーキング協会等と連携し、「歴史街道」のメインルートを実際に自分の足で踏破するイベントを実施することについても検討する。

実施にあわせたガイドマークの設置、さらには広域拠点施設づくりの推進(例:熊野古道、山の辺の道+山背古道)などの事業も重要である。



(4) 世界遺産地区等との連携

「歴史街道」モデル事業の「点」から「線」への展開に加えるべき視点は、この地に集積する世界遺産地区等との連携である。

世界遺産などにあふれた関西をこそ、「景観法」活用の先進的地域にしていくべきである。

第五期において、協議会と世界遺産登録地区、国立国定公園、国営公園、重要伝統的建造物群保存地区などとの協力体制を築くことにより、「美しい関西づくり」への具体的な第一歩を記したい。

各種の要望活動や、景観形成事業推進費等を活用した具体的事業を推進するとともに、環境保全などの視点も加えつつ、関係者間の連絡会議を設置。

当面は、相互の情報交流やシンポジウム等による情報発信に努めていく。



関西の世界遺産



姫路城



法隆寺地域の仏教建造物



古都京都の文化遺産



古都奈良の文化遺産



紀伊山地の霊場と参詣道



関西の国立公園

	公園名	指定年月日	関係都道府県
1	伊勢志摩	1946年11月20日	三重
2	吉野熊野	1937年2月1日	三重, 奈良, 和歌山
3	山陰海岸	1963年7月15日	京都, 兵庫, 鳥取
4	瀬戸内海	1934年3月16日	大阪, 兵庫, 和歌山, 岡山, 広島, 山口, 徳島



伊勢志摩国立公園



瀬戸内海国立公園

関西の国定公園

	国定公園名	指定年月日	関係都道府県
1	越前加賀海岸	1968年5月1日	石川, 福井
2	若狭湾	1955年6月1日	福井, 京都
3	鈴鹿	1968年7月22日	三重, 滋賀
4	室生赤目青山	1970年12月28日	三重, 奈良
5	琵琶湖	1950年7月24日	滋賀, 京都
6	明治の森箕面	1967年12月11日	大阪
7	金剛生駒紀泉	1958年4月10日	大阪, 奈良, 和歌山
8	氷ノ山後山那岐山	1969年4月10日	兵庫, 鳥取, 岡山
9	大和青垣	1970年12月28日	奈良
10	高野龍神	1967年3月23日	奈良, 和歌山

関西の国営公園

	国営公園名		関係都道府県
1	淀川河川公園		京都府、大阪府
2	国営飛鳥歴史公園		奈良県
3	国営明石海峡公園		兵庫県

重要伝統的建造物群保存地区

三重	亀山市関宿	宿場町	1984.12.10	(三)
滋賀	大津市坂本	里坊郡・門前町	1997.10.31	(三)
滋賀	近江八幡市八幡	商家町	1991.4.30	(一)
滋賀	東近江市五個荘金堂	農村集落	1998.12.25	(三)
京都	京都市上賀茂	社家町	1983.12.16	(三)
京都	京都市産寧坂	門前町	1976.9.4	(三)
京都	京都市祇園新橋	茶屋町	1976.9.4	(一)
京都	京都市嵯峨鳥居本	門前町	1979.5.21	(三)
京都	美山町北	山村集落	1993.12.8	(三)
京都	伊根町伊根地区(伊根浦)	漁村	2005.12.27	(三)
京都	与謝野町ちりめん街道	製織町	2005.12.27	(二)
大阪	富田林市富田林	寺内町・在郷町	1997.10.31	(一)
兵庫	神戸市北野町山本通	港町	1980.4.10	(一)
兵庫	篠山市篠山	城下町	2004.12.10	(二)
奈良	橿原市今井町	寺内町・在郷町	1993.12.8	(一)
福井	若狭町熊川宿	宿場町	1996.7.9	(三)

- (一)伝統的建造物群が全体としてよく意匠的に優秀なもの
- (二)伝統的建造物群及び地割りがよく旧態を保持しているもの
- (三)伝統的建造物群及びその周囲の環境が地域的特色を顕著に示しているもの

歴史街道第五期計画のまとめ

1. 「歴史街道」をデスティネーションに

- (1) メインルートにおける資源の発掘・再整理
- (2) 「案内」「食と買い物」「宿泊」関係事業の集大成
「町家店舗」「語り部」/ 歴史街道推奨ブランド 21 / 宿泊施設のネットワーク
歴史街道 i センター
- (3) 「点」から「線」への展開
日本風景街道（シーニック・バイウェイジャパン）との連動
鉄道会社ほか交通機関との連携
- (4) テストツアーの充実
メインルートにおける 12 のテストツアー
紀伊半島ネットワークにおける 4 つのテストツアー
戦国～江戸時代ネットワークにおける 3 つのテストツアー
古代史ネットワークにおける 2 つのテストツアー
- (5) その他の課題
周遊バスの連携
ゾーン単位での課題克服（「伊勢～飛鳥」/ 「飛鳥～奈良～京都」/ 「淀川周辺」
「阪神間」）

2. 全国への情報発信

- (1) 訴求ポイントの整理
各地ゆかりの歴史的人物の活用
「記念年」と「21 ツアー」
「心の時代」「和の時代」
「日本文化の中心」としての「歴史街道」
- (2) 発信手法と発信先
キーマンへの情報発信
メディア対策
地方都市への発信
新しいファン層の開拓
- (3) 関西圏における広報
情報発信サポート機能の充実
QRコードのさらなる活用
- (4) 海外広報
発信素材、ノウハウ、人脈の継承

3. 3つのネットワーク事業の発展

- (1) 紀伊半島ネットワーク
 - 提言冊子づくり
 - 京都や大阪との連携強化
- (2) 古代史ネットワーク
 - 南大阪～飛鳥
 - 大阪府・奈良県によるキャンペーン事業の発展
 - 博物館の活用
 - 南阪奈道路への愛称募集
 - 「太陽の道」(サンロード)に沿った連携
 - 世界遺産登録の推進
 - 丹後・但馬
 - 資源の絞込み、共同広報
 - 市民を含めた交流会議の設置
- (3) 戦国～江戸時代(サムライのまち)ネットワーク
 - JR新快速に沿った連携
 - 祭の活用
 - 県別の事業提案
 - 福井歴史街道づくり
 - 滋賀歴史街道づくり

4. 美しい関西づくり

- (1) 「歴史街道」モデル事業地区における重点支援
 - ・フォローアップ施策の充実
 - ・「美しい国土づくり」「景観形成モデル事業」等、国の施策との連携
 - ・複数地区間や地区周辺、周辺資源との連携促進
- (2) 「点」から「線」への展開
 - ・景観道路(シーニック・バイウェイ)などによる歴史・自然資源のネットワーク
- (3) 古道・街道の顕彰と活用
 - ・「近畿街道・拠点ネットワーク推進協議会」等との連携
 - ・各街道のハイライトコースを歩く「古道・街道ウォーク」の定例化
 - ・イベント実施にあわせたガイドマークの設置、広域拠点施設づくりの推進
- (4) 世界遺産地区等との連携
 - ・世界遺産登録地区、国立国定公園、国営公園、伝統的建造物群保存地区等との協力体制の構築